

楽しい仲間たち

見事高円宮賜杯全日本学童野球福岡県大会出場を決めた長峰



監督9年で感じることは？

テ

クラブ、安達智幸監督（45歳）に話を聞きました。「我がクラブは創部35年、現部員は28名、OB部員は300名余です。私は第二期生です」
指導方針は？ 上手になるうとする前にまず野球を好きになることです。父兄は厳しく鍛えて下さいと言われますが年令に合った体づくりを重視しています。早い時期に無理なトレーニングをして体を傷めないことが大事です。それが中学、高校と進んだ時最後の勝利者になれます。例えば投手では投球数は学年×10球（6年生で60球）を目途にして

ニス、ゴルフ、野球、サッカーなどのスポーツも低年齢化しています。早くからボールになじむことはそれなりに効果は認めます。しかし練習をやらされていくという気がします。自分から目標をもって取り組まないと成果は上がりません。
今年のチームの特長は？ 守って勝つ守備型のチームです。経験のある6年生8名が引っ張る頼もしいチームです。
その結果が県大会出場になったのですね。 私は強いチームが必ずしも上位に勝ち進むのではないと言っています。勝者にふさわしい選手になれば結果は自然とついてきます。挨拶ができる、人にやさしくできる、手伝いができるなど人間としての基本ができた選手は試合をする毎

2010年・ゆめタウン 父の日児童画コンクール金賞

職人の伝統技術の大切さについての教育が薄れてきた。

この絵で注意してほしいのは絵の優れた内容もさることながら、子どものためにお父さんがこのポーズをとってくれたこと。「職人の基礎技術が、いまの機械化された畳製作をささえる根源にある」と、子どもの絵画活動のためにすばらしいポーズで示してくださいとお父さんに喝采をおくりたい。

大介君は父の仕事に誇りをもったにちがいない。大介君は父と同じく腕と指を使って最高の絵を描いたのだ。

絵画活動により父の職人技のすばらしさを同体験できることも、絵画活動教育の一面にある。

杉山絵の教室 杉山亞土



八女市立川崎小学校六年 桜木 大介

輝く人

人生は夢と感動の積み重ね...



福島忍さん（71歳）はサラリーマン生活を約10年程前に終え、現在ステンドグラスの制作に、情熱を燃やし続けている。きっかけは、当時新築した玄関を飾っていた一枚

筋の人生を歩み、ノンブルの少年野球（当時の羽犬塚サンボーイズ）監督もされていたことは、この世界では有名な話で、当時の西日本新聞杯九州

のステンドグラスに朝日がつくり出す幻想の世界に魅了されたことである。自らが制作した作品は、幻想的な光と影で家族はもちろん、多くの人に美と癒しの感動を与えている。また、数多くの賞も受賞されているが、氏はいたって謙虚である。現在の温和な顔からは想像し難いが、小さい時から野球一



安達 智幸 監督

に自信を持ち技術も上達します。**クラブのモットーは？** 全員野球です。勝つことも大事ですが全員でゲームを組み立てることが大切です。28名の全員にそれぞれの役割があります。みんながその役割を果たしたことが県大会出場につながったと思っています。
ありがとうございます。ご健闘を祈ります。（高円宮賜杯全日本学童野球福岡県大会は6月12・13・19日県内32チームが参加して開催され長峰クラブは北筑後地区代表として出場しました）



山口大会では第1回グラウンドマナー賞を受賞され、子供達や父兄の方々と共に数え切れないほどの感動を体験されている。当時の思い出を語る時、氏の目に光るものが流れていた姿からはやさしく心

豊かな人柄が伺える。龍馬伝が脚光をあびる昨今、昔も今も人を衝き動かす原動力は「夢と感動」ではないか。一度の人生、人それぞれ様々な夢と感動で生きていきたいものだ。

作品をご覧になりたい方は気軽に立ち寄って下さいと話されるご夫婦の素敵な笑顔が印象的だった。（H・N）
筑後市西牟田6380-29
0942-53-2278

51年ぶりの修学旅行

昭和35年3月黒木町立豊岡小学校を卒業した同窓生40名で卒業50周年記念修学旅行に行きました。（5月30日〜31日）小学6年生のとき（昭和34年5月16日〜17日）に行った雲仙・長崎方面への修学旅行と同じコースを51年ぶりに辿る旅でした。

八女市黒木町本分の豊岡小学校跡地を51年前と同様、堀川バスで出発し、

熊本市長洲港から有明フェリーで長崎県多良港へ。島原を経由して雲仙の仁田峠へ向かい、51年前には濃霧で乗れなかったロープウェイで妙見岳へ。仁田峠は、ミヤマキリシマが満開でした。仁田峠を下って雲仙へ。地獄では、51年前と同じ真知子岩の前で記念撮影をしました。小浜温泉での宿泊は、51年前と同じ「うぐいすや旅館」で、半世紀前の修学旅行の思い出話に花が咲きました。

2日目は長崎で、51年前と同様、大浦天主堂やグラバー邸、平和公園などを見学。平和祈念像の前でも51年前と同じく記念写真を撮りました。長崎からの帰路は、51年前は一般道でしたが、今回は長崎自動車道・九州自動車道を経由して豊岡小学校跡地へ帰着しました。

今回の旅では、51年前の修学旅行の記憶を辿りながら、同時に、新たな思い出を作ることができました。

幹事 立野省吾・堤諭吉